

vol.7
ココイケのこれから

ココイケ

2023年9月号

制作
調和小学校PTA 会長 三浦 伸幸
発行
2023年9月

コロナの影響で清掃以外の活動は控えめだったココイケサポーターズ。これからは、イベント活動も積極的に参加していきます。



マスつかみ取り

「マスつかみ取り」は2019年まで毎年行っていた人気イベントですが、コロナでしばらく開催出来ていませんでした。今回は、試験的にメンバーのみの参加で行いました。当日は天気にも恵まれ、自分で内臓を取り出した魚を炭で焼き、おいしくいただきました。今年は一般に向けて開催予定です。ご期待ください。



イベント参加

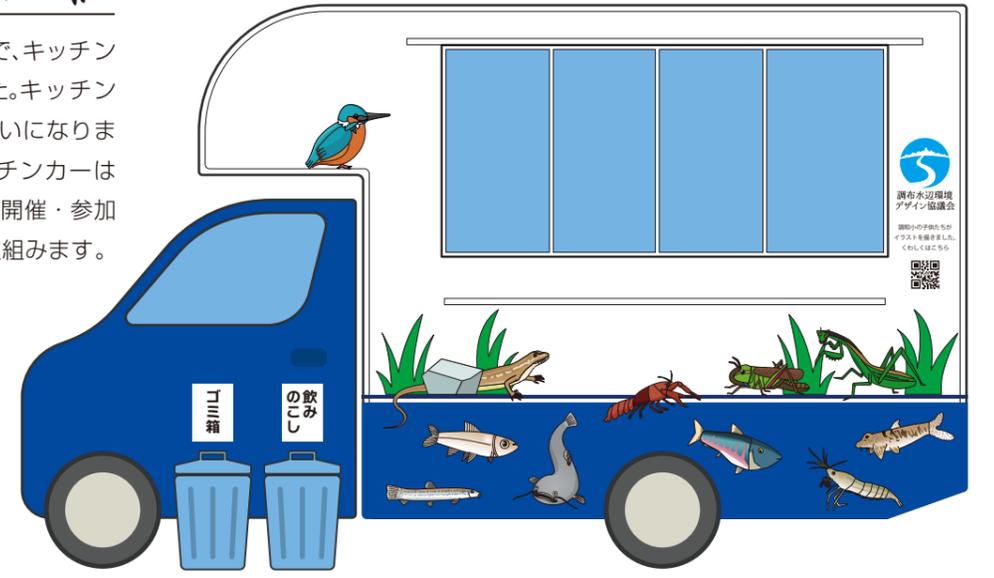
第8回調和SHCフェスタに参加しました。ココイケサポーターズは野川の生き物を水槽で展示する水族館に加え、ヨーヨー釣り、スーパーボールすくいを実施しました。コロナも収束に向かう中、当日は、多くの方にご来場いただきました。今後も機会があれば、サポーターズとして参加する予定です。



キッチンカーラッピング



ココイケメンバーのイラストで、キッチンカーのラッピングを行いました。キッチンカーは野川の生き物がいっぱいになりました。(残念ながら、現在キッチンカーは撤去されています。)イベント開催・参加以外の活動も、機会があれば取組めます。



募集!! ココイケサポーターズ



ココイケサポーターズは、野川生き物博士のいそべ隆さんに顧問となってもらい、活動を行っています。



清掃後はごみ拾いとガサガサ

クサガメのユウ君。水中から顔をだして、餌をもらいます。



今後の予定
月に一度のペースで、清掃と生き物の捕獲を行う予定です。コロナの状況を見つ、イベントでの生き物展示やマスのつかみ取りも企画中です。

調和小校庭の片隅にあるココイケの管理をしているのが、ココイケサポーターズです。PTA有志によるココイケサポーターズは、奇数月は第一土曜日、偶数月は第一日曜日にココイケ清掃や野川のごみ拾い、生き物採集を親子で行っています。学校内のちょっとした修繕も行うことも!? 専門的な知識や特殊な道具は不要です! 子供たちの学校にぜひお力をお貸しください。また、サポーターズは地引網などのちょっと変わった自然・生き物系のイベントにも参加していきます(天候などによりイベントが開催されないこともあります)。自然や生き物が好きなお子さんに特におすすめです。ご興味のある方は、まずは見学どうぞ。毎月の活動日程は、LINE で連絡します。毎回参加できなくてもOK。ご都合の良い時にご参加ください。男女問わず、幅広い年齢の子供達と一緒に活動しています。ご興味のある方は、右のQRコード(Google フォーム)より、お申込みください。活動については、調和小ホームページ「本校の特色」でも紹介しています。
<https://www.chofu-schools.jp/chowa-sho/tokushoku/2021-1005-0850-47.html>
※見学も右記にお申込みください。
※PTAの活動です。お子様だけの参加はできません。



4月の活動では野川の菜の花を試食しました。子どもたちからは「おいしい!」の声が。

お申込み

下記QRコードのフォームより、ココイケサポーターズ体験参加をお申し込みください。



<https://forms.gle/a74eg3ezkNQN6MSy6>

※PTAの保険の都合上、参加は調和小学校在籍児のみとなります。他校の方、未就学児の参加はご遠慮ください。
※2日経っても返信がない場合は、下記メールアドレスまでご連絡ください。
cocoike2016@gmail.com

ココイケ世話人代表
井上 あい子

どこにいる？どこが違うの？

はちゅうるいへん 爬虫類編

調和小の横を流れる野川には、魚だけではなく、カメやヘビもいます。今回は学校のそばに生息する爬虫類の見分け方をご紹介します。



カメ



ミシシッピー
アカミミガメ

北米原産の条件付特定外来生物。頭部両側に橙赤色の斑紋。別名ミドリガメ。30年以上生き、甲長約30cmに。



クサガメ

江戸時代以前に大陸から日本へ。背甲に3本の隆起(キール)がある。前足付け根から悪臭を発することが名前の由来。



ウンキュウ
(イシガメ)

日本固有種のニホンイシガメとクサガメの交雑種。両者の特徴を持ちバリエーションが豊富。



ニホンスッポン

在来種。中国スッポンとの交雑が心配される。甲羅が柔らかく、首が伸びるため、後ろ足の付け根を持たないと噛まれる。



ミシシッピードロガメ

北米原産のペット亀。繁殖は確認されていないが、野川で遺棄ペットが複数回捕獲されている。日本で越冬可能。

見分けポイント

カメ類は個体差があり、見分けは難しいです。まずは全体的なフォルムから候補を絞り込みます。例えばクサガメとイシガメは大きさは同じくらいでも、背中の三本線(キール)や顔の横の黄色い線の有無などで区別が可能です。さらに両方の特徴があるなら交雑種です。パーツごとの比較が判断基準になります。

トカゲ・ヤモリ



ヒガシニホントカゲ

東日本に分布。幼体は暗褐色に明るい縦縞で尾は青。成体は褐色で、体側面に茶褐色の縦縞。体表につやがある。



ニホンカナヘビ

細長い体に全長の2/3以上を占める尾が特徴。また、背面の鱗には強い稜線がある。鱗に光沢がなく、乾いて見える。



ニホンヤモリ

灰色や褐色。色は環境により濃淡が変化。ウロコは細かい。指の趾下薄板(しかはくばん)でガラス貼り付くことができる。

見分けポイント

トカゲ・ヤモリは表面の違いが見分けのポイントです。ヒガシニホントカゲは全身が同じような形状の光沢のウロコで覆われています。カナヘビは光沢の無いウロコです。ヤモリのウロコは極小で乾燥に弱いため、夜行性です。

ヘビ



アオダイショウ

色は地域や個体で大きく変わり、灰褐色から暗褐色、暗緑色。本州では最大のヘビ。体長100~200cm。



シマヘビ

淡黄色に4本の黒い縦縞模様。縞がない個体、全身が黒い個体も。赤い虹彩に縦長瞳孔。近年個体数が増えている。



ヒバカリ

水辺に棲むの小型のヘビ。背面の色彩が淡褐色や褐色で、口から首に白や淡黄色の斑紋が入る。体長40~50cm。

見分けポイント

ヘビ類は模様が大切です。アオダイショウは全体的に青みがかった褐色に不明瞭な線、シマヘビは明瞭な線に真っ赤な目、ヒバカリは目の後ろに頬のような白い模様が入ります。アオダイショウもシマヘビも幼体の時はマムシに擬態しています。

